



国立大学法人

一橋大学

一橋大学政策フォーラム

生産性向上と働き方改革： 新たなデータと分析手法を用いた提言

開会の辞 都留康（一橋大学教授）

第1部 働き方改革の目的と方法 13:15~14:45

播磨昭彦氏（SCSK株式会社上席執行役員人事グループ分掌役員）

神津里季生氏（日本労働組合総連合会会長）

第2部 研究者からの発信とパネル討論 15:00~18:00

大湾秀雄（東京大学教授）

都留康（一橋大学教授）

徳丸宜穂（名古屋工業大学准教授）

中島賢太郎（一橋大学准教授）

パネル討論と質疑応答

司会進行：小塩隆士（一橋大学経済研究所所長）

2018年2月5日（月）

13:00~18:00（12:30受付開始）

一橋講堂 [中会議場]

（千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター）

<神保町駅 半蔵門線・都営三田線・都営新宿線
A8・A9 出口 徒歩4分>

<竹橋駅 東京メトロ東西線1b 出口 徒歩4分>

申込▶

<https://hrs.ad.hit-u.ac.jp/v33/entries/add/93>
（※切：2018年2月2日（金））



参加費▶無料

お問合せ▶

一橋大学経済研究所政策フォーラム事務局

TEL: 042-580-8327

Mail: forum180205@ier.hit-u.ac.jp

平成29年度 第4回 一橋大学政策フォーラム
「生産性向上と働き方改革：新たなデータと分析手法を用いた提言」

日 時：2018年2月5日（月）13：00～18：00（12:30 受付開始）

会 場：一橋講堂中会議場

（〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター2 階）

主 催：国立大学法人一橋大学／一橋大学経済研究所

【会議の趣旨】

生産性向上と働き方改革は、現代日本の緊喫の課題である。それは、政府の重点政策である以上に、日本が持続可能な形で、つまり競争力を維持しながら豊かさを享受できる経済社会へと進化できるか否かの試金石だからである。このため、一般国民も、このテーマに大きな関心を抱いている。それゆえに、まず実務家の基本的な考え方や実践例をうかがう。

ところで、客観的データと冷静な分析をもってこの問題に取り組んだ研究は多くはない。そこで、このフォーラムでは、一橋大学を中心に行った新規性の高いデータによる厳密な分析の結果を報告する。

具体的には、製品開発などの高度の知的労働に携わる人材の働き方や仕事の進め方に焦点を当て、生産性向上と働き方改革への示唆を、①企業内人事データ、②日中韓企業の企業・個人データ、③ウェアラブルセンサから得た行動データ、を駆使して国際的かつ多面的に明らかにする。そして、参加者との討論を通じ、新たな政策提言を提起したい。

【プログラム】

12:30～ 受付開始

13:00～13:15 開会の辞

ご挨拶：小塩隆士（一橋大学経済研究所所長）

趣旨説明：都留 康（一橋大学教授）

第一部 働き方改革の目的と方法 13:15～14:45

13:15～14:00 播磨昭彦 氏（SCSK 株式会社上席執行役員人事グループ分掌役員）

14:00～14:45 神津里季生 氏（日本労働組合総連合会会長）

14:45～15:00 休憩

第二部 研究者からの発信とパネル討論 15:00～18:00

15:00～15:30 報告1 大湾秀雄（東京大学教授）

「ソフトウェア開発における早期すり合わせの効果と働き方改革への示唆」

15:30～16:00 報告2 徳丸宜穂（名古屋工業大学准教授）

「製品開発エンジニアの仕事実態：日中韓比較」

16:00～16:30 報告3 都留 康（一橋大学教授）

「製品開発におけるアイデア創出と人材マネジメント：日本の針路を考える」

16:30～17:00 報告4 中島賢太郎（一橋大学准教授）

「職場内コミュニケーションと生産性：ウェアラブルセンサによる定量的評価」

17:00～18:00 パネル討論と質疑応答

申込▶ <https://hrs.ad.hit-u.ac.jp/v33/entries/add/93>

（※切：2018年2月2日（金））

お問合せ▶ 一橋大学経済研究所政策フォーラム事務局

TEL: 042-580-8327 Mail: forum180205@ier.hit-u.ac.jp